

令和元年6月21日現在

機関番号：31308

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K13187

研究課題名(和文) 芸術的創造性を育む教育支援プログラム「新しい子どもの歌の編曲」開発と具体化

研究課題名(英文) Development and Realization of "a New Arrangement of Children's Songs" An Educational Support Program for the Purpose of Developing Artistic Creativity

研究代表者

近藤 裕子 (KONDO, Yuko)

石巻専修大学・人間学部・教授

研究者番号：50461265

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：保育者養成校や保育現場で使われている「子どもの歌」の理論的・実践的分析を行い、作曲家の立場から「弾ぎにくい」「歌いにくい」「音楽的でない」点を理論的に解明して新しい編曲を開発した。それらの作品は、連携研究者とともに大学授業での試行を繰り返した。学生は今まで諦めていた曲が「弾ぎやすい伴奏」に編曲されたことで演奏できるようになり、「美しい音色の変化」にも気づくようになった。それは「子どもの歌」が作曲家によって編曲された賜物である。保育者養成校の教員や保育者も「伴奏」の世界に興味を持って「新しい子どもの歌」に取り組み、「編曲」による可能性がさらに広がった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、わが国で等閑視されてきた保育系音楽の向上を目指すために保育者養成校の教員や学生、保育者が容易に演奏できる「新しい子どもの歌」を開発し、その試行や、本実施にできるだけ多くの参加者を得ることによって、保育系音楽の授業および保育現場での音楽の質的向上を図ることが意図されている。

研究成果の概要(英文)：Using both theoretical and practical analysis of children's songs used in child-care worker training schools and the child-care workplace, a new arrangement was devised through theoretical clarification of points that, from the point of view of a musical composer, were considered 1) difficult to play 2) difficult to sing 3) unmusical. Tests were conducted on the newly developed works in university lectures together with fellow researchers. Students opined that the newly arranged songs had accompaniments that were easier to play than before, allowing them to play songs that had hitherto been impossible for them, and also claimed that the arrangements sounded better. This was a positive result from the point of view of the composer that arranged the children's song. It also prompted child-care worker training school educators and child-care workers to show greater interest in musical accompaniment and attempt new children's songs, showing how arrangement can unlock hidden potential.

研究分野：作曲、音楽理論

キーワード：作曲 編曲 子どもの歌 弾き歌い ピアノ伴奏

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

わが国の保育者養成校におけるピアノ教材として、現在でも多くの大学で使用しているバイエルピアノ教則本ができたのは、日本の江戸時代である。200年前の教科書が現代の授業に通用するのであろうか？同様にピアノ弾き歌い教材としてさまざまな「子どもの歌」の曲集がある。これも数十年間変わらず同じ本が使われている。慣れと問題意識の希薄なまま時間が経過したのであるが、以下のような理由が考えられる。第1は、編曲の良し悪しがわからない場合である。保育者養成に関わる教員や保育者が音楽の理論的な理解に乏しい、あるいは興味がない。そのため「良い編曲」と「良くない編曲」の見極めが難しい。第2は、編曲に問題がある場合である。学生は、弾きたい曲が難しい曲だったら弾けない。ところが調べてみると「難しい」と思われている曲が、実は「理論的に間違った編曲」によって「難しくなってしまうことが多い。無理な運指・指の跳躍により、かえって読譜を難しくしているのである。第3は、編曲の性格上、統一した見解が無い場合である。「子どもの歌」は単純で編曲しやすいと考え、作曲の専門家でない人が多くの簡易伴奏を編曲している。保育現場ではそれを編曲の良し悪しにかかわらず使用している。

2. 研究の目的

幼稚園教諭・保育士(以下保育者)養成校における音楽の研究・教育や授業を担当して疑問に思うことがある。なぜ「子どもの歌」の伴奏の編曲は、作曲家が体系的にまとめていないのだろうか？作品を理論的に分析して問題提起する人がいないことに気づいたのである。保育における音楽はピアノが主体である必要はない。しかし保育者をめざす学生が卒業まで避けて通れないのもピアノである。それならば、作曲家の手でより考えられた編曲を行い、できる限り洗練された弾きやすい伴奏があっても良いはずである。本研究では「子どもの歌」の伴奏における問題点を明らかにし、理論的に編曲をし直して「子どもの歌」を一新する。保育者養成に関わる教員や学生および保育者に新しい編曲による「新しい子どもの歌」の浸透を図りたい。

3. 研究の方法

芸術的創造性を育む教育支援プログラム「新しい子どもの歌の編曲」開発と具体化を、以下の手順で行う。(1)が理論的準備段階、(2)が開発段階、(3)が試行段階、(4)が実施段階である。

(1) 保育者養成校および保育現場で使用されている「子どもの歌」弾き歌いテキストの編曲の研究。

(2) 保育者養成校および保育現場で必要とされている「子どもの歌」をリストアップして編曲の可能性を検討、編曲を開始。「新しい子どもの歌」の開発。

(3) 保育者養成校および保育現場で、「新しい子どもの歌」を試行、課題の把握。

(4) 「新しい子どもの歌」の本実施と分析、学会発表、作品発表。

4. 研究成果

(1) 理論的準備段階

連携研究者の協力により、附属幼稚園などに出向いて保育現場で使用されている「子どもの歌」弾き歌いテキストを多数収集することができた。近年、ピアノの代わりにCD伴奏を使用する園が多い。保育者養成校の学生の多くがピアノ未経験のため、取材した教員は授業レベルの低下について危機感を持っていた。

(2) 開発段階

理論的準備段階での問題点をもとに、全く楽譜が読めない学生が飛躍的に演奏可能になるための「新しい子どもの歌」の編曲に向けて始動する。左手の音を少なくするのももちろんであるが、無理な運指や指の跳躍をできる限り減らしても、豊かな響きは維持することを心がけた。

保育現場においては、子どもたちが音楽的に美しい伴奏として記憶に残る編曲をめざした。

(3) 試行段階

連携研究者とともに各大学での試行を行う。学生に「新しい子どもの歌」の編曲を提示し、「オリジナル」と「編曲」のどちらかを選んで演奏してもらう。選んだ理由や演奏後の感想も聴取した。その結果、やや弾ける学生は「オリジナル」の良さも理解していたが、彼らも含めて数多くの学生が「編曲」によって弾きやすくなり、音色の美しさにも気づいていることが判明した。

(4) 実施段階

「新しい子どもの歌の編曲」を進めていくうちに、新たな問題が浮上した。著作権の関係で編曲が認められない場合が多いことである。もちろん著作権者の了承を得られなかった時に作品を使用できないのは当然であるが、連携研究者から、作曲家に直接コンタクトを取っても断られる場合が多かったと聞き、同じ作曲家として、「編曲」のハードルの高さを実感した。今後、「新しい子どもの歌の編曲」で開発した作品から50曲程度を選曲、出版したいと考えている。

並行して、連携研究者(主宰)とともに、「子どもの歌を考える会」を立ち上げ、広く子どもたちから詩を募集して「新しい子どものための歌」を作曲する試みを行っている。現在まで、4回の演奏会を開催、生き生きとした子どもの歌が誕生している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計3件)

- (1) 近藤裕子「子どもの詩に作曲するということ 詩と音楽とその創造性」
東北芸術文化学会第23回大会、2017年7月22日、仙台アエル
- (2) 近藤裕子「『新しい子どもの歌』編曲と作曲への新たな試み」
東北芸術文化学会第22回大会、2016年7月30日、仙台アエル
- (3) 近藤裕子「合唱作品《ひとつになる》 作詩・作曲の経緯と結実」
東北芸術文化学会第21回大会、2015年7月5日、仙台アエル

〔図書〕(計1件)

吉富功修・三村真弓(編著)、近藤裕子他(著)、ふくろう出版、改訂4版 幼児の音楽教育法—美しい歌声を目指して—、2019、総216頁(83-91,158,174-175,176-177,180-181,182-183,188)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

〔楽譜〕(計2件)

- (1) 近藤裕子「《ひとつになる》Two Become One」 混声三部合唱、斉唱(作詩・作曲)
マザーアース社 2016年6月1日
- (2) 近藤裕子「美しい音色のアレンジで楽しむ ミュージックベル大好き！」(編曲)
マザーアース社 2016年3月15日

〔作品発表〕(計10件)

- (1) 近藤裕子「子どもの詩による歌」 1.うんていがはげましてくれた 2.こおった池 3.ねこ 4.夕べのかね 「音楽のたまて箱 vol.4 子どもとともに創る・楽しむ」子どもの歌を考える会 2018年11月25日 岡山ルネスホール
- (2) 近藤裕子「子どもの詩による歌」 1.水たまり 2.ずっとわすれないよ 3.なんでだろう

- 4.いす 「音楽のたまて箱 vol.3 子どもとともに創る・楽しむ」子どもの歌を考える会 2017年11月23日 岡山ルネスホール
- (3) 近藤裕子「無伴奏混声合唱のための『ゆめのよる』」 1.ゆめのよる 2.はこ 3.しんぶん 4.けいとのため 東北の作曲家 2017 in 山形～合唱作品の夕べ～ JFC 東北 2017年3月17日 山形市民会館
- (4) 近藤裕子「子どもの詩による歌」 1.およぐ 2.ふゆからはるに... 3.野原 4.風 「音楽のたまて箱 vol.2 子どもとともに創る・楽しむ」子どもの歌を考える会 2016年11月23日 岡山ルネスホール
- (5) 近藤裕子「混声三部合唱 石巻の小学生の詩による《ことば》」 第36回 奏楽堂トーク&コンサートシリーズ アジアの伝統・アジアの現代 2016 日本作曲家協議会 2016年2月23日 台東区生涯学習センターミレニアムホール
- (6) 近藤裕子「混声三部合唱《ひとつになる》Two Become One」作詩・作曲・指揮 滋賀県大津市市民合唱団コールライゼ 2015年12月6日 大津市民会館
- (7) 近藤裕子《Two Songs Based on the Poems 'Kinou Irasshitte Kudasai' 'Kami' by Saisei Murou》 2015 East Asia International Contemporary Music Festival 2015年11月20日 Daegu,S.Korea
- (8) 近藤裕子「混声三部合唱《ひとつになる》Two Become One」作詩・作曲 第29回京都芸術祭 2015年9月6日 フィガロホール
- (9) 近藤裕子「室生犀星の詩による二つの歌曲」 1.昨日いらつしつて下さい 2.紙 第3回北海道の作曲家展 北海道作曲家協会 2015年8月29日 札幌市教育文化会館
- (10) 近藤裕子「混声三部合唱《ひとつになる》Two Become One」作詩・作曲 ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル特別演奏会 in 滋賀 2015年7月23日 びわ湖ホール

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：熊澤 住子

ローマ字氏名：KUMAZAWA Sumiko

研究協力者氏名：應和 恵子

ローマ字氏名：OWA Keiko

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。